

人間科学部 児童教育学科

ディプロマ・ポリシー

1. 卒業要件

以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 80 単位以上、共通科目から 39 単位以上、関連科目及び共通科目から 12 単位以上、合計 131 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（教育学）の学位を授与する。

2. 修得する能力

- (1) 人間の生涯にわたる成長と発達について理解している。
- (2) 社会や自然に対する深い理解、他者への共感、高い倫理意識を備えている。
- (3) 幅広い視野、健康な心身、論理的な思考力を備えている。主体的思考力や総合的判断力、発表能力、情報処理能力等があり、新たな社会の変化に参画することができる。
- (4) 保育・教育分野の基本的知識・技能を習得し、現実場面で実践できる。
- (5) 保育・教育に関する資格や免許を取得するために必要な能力を修得している。
- (6) 対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力と応用的能力を身に付けている。
- (7) 保育・教育に関する現象の中から、解決すべき課題を自ら発見することができ、それらに対する適切な仮説を生成することができる。
- (8) データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、また、その内容を適切に解釈して活用することができる。
- (9) 保育・教育の視点からグローバルな事象について考察する力を身に付けている。
- (10) 知識と外国語を利用して実践できる。

3. 卒業後の進路

公私立の保育園（所）、幼稚園、小学校及び福祉施設・機関への就職、更に大学院への進学が期待される。

カリキュラム・ポリシー

1. 体系（構成）

- (1) 児童教育学科の授業科目は、専攻科目・関連科目・共通科目から構成されている。
 - ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
 - ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
 - ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育

てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。

- (2) 1年次には、大学での学習・研究の基礎能力を身に付けるために基礎演習を必修科目として履修する。
- (3) 2年次には、児童教育の専門分野について理論と実践の両面において幅広くかつ深く学習・研究するために用意された専攻科目を中心に履修する。上記に含まれる保育内容の研究、教科研究、音楽・造形・体育、保育実習、教育実習等を通して、実践的な基礎能力を培う。なお、専攻科目は以下の4つの科目群から構成されている。
 - ①保育・福祉に関する科目
 - ②教育・心理に関する科目
 - ③教科研究に関する科目
 - ④演習・卒業論文に関する科目
- (4) 教育・保育現場における実地体験（小学校・幼稚園・保育所、その他の施設における教育・保育実習や介護等体験）で実践的な知識・技能を習得する。
- (5) 3年次の演習Ⅰでは、調査・報告・討論を中心とした少人数での学習で専門性を深めながら、自分の追及課題を決定する。
- (6) 4年次には、これまでの学習・研究の総仕上げとして全員が卒業論文に取り組み、中間報告を経て提出する。

2. 特色

- (1) 少人数による探究を可能とするカリキュラム構成により、全員が1年次に基礎演習で学問への取り組みの基礎を学び、更に3年次、4年次には所属した演習の中で自分の研究課題を設定し、探究を深め、卒業論文を作成する。
- (2) 幅広くバランスのとれたカリキュラム構成により、キリスト教の全人教育を基礎にして、保育・教育を中心に自然科学、人文科学、社会科学、スポーツ科学、等を幅広く学ぶ。
- (3) 一人ひとりの進路に対応したカリキュラム構成により、自分の進路や目的に応じて資格を自由に選択することができるよう、保育・教育に関する教科を基礎として、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等のそれぞれの資格ごとに専門科目を系統・体系的に構成している。
- (4) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔関連科目・共通科目〕

社会や自然に対する深い理解、他者への共感、高い倫理意識を身に付ける。幅広い視野、健康な心身、論理的な思考力を身に付ける。主体的思考力や総合的判断力、発表能力、情報処理能力等があり、新たな社会の変化に参画する能力を身に付ける。知識と外国語を利用して実践できる能力を身に付ける。

〔保育・福祉に関する科目〕

人間の生涯にわたる成長と発達について理解する。保育・教育分野の基本的知識・技能を習得し、現実場面で実践できる能力を身に付ける。

〔教育・心理に関する科目〕

対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力と応用的能力を身に付ける。保育・教育に関する現象の中から、解決すべき課題を自ら発見することができ、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。

〔教科研究に関する科目〕

保育・教育に関する資格や免許を取得するために必要な能力を修得する。

〔演習・卒業論文〕

データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、また、その内容を適切に解釈して活用することができる能力を身に付ける。保育・教育の視点からグローバルな事象について考察する力を身に付ける。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

児童教育学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 自分をとりまく諸世界（人間・社会・自然など）について学ぶことに関心を持ち、それらに対する基礎的知識を有する者。
- (3) 将来、保育・教育の現場で活動することに意欲を持ち、その活動に幅広く関わる内容への基本的な学習能力を有する者。
- (4) 社会性、規範意識があり、人や社会と関わることに意欲的な者。

2. 選抜方法

児童教育学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般・センター併用型入試では、合否判定に利用する科目として、大学入試センター試験から必ず数学または理科を採用することなど、児童教育学科において専門知識を修得するための理数的能力を有しているかについても併せて評価する。

- (2) 特別選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

特別選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生

徒の推薦を求める。また、受験者には小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。